

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

# こどもの病気対策法⑦④

— 蚊に注意！ デング熱や日本脳炎 その他の蚊が運んでくる感染症 —

大分大学地域医療・小児科分野 是松聖悟

東京の公園で、蚊に刺された複数の人がデング熱という病気になり、心配をされている人も多いかと思えます。デング熱とは、蚊が運ぶデングウイルスによる感染症です。人から人には感染しません。これまで中南米や東南アジアでみられていましたが、地球の温暖化が原因でしょうか？ 世界で増えています。風邪症状しか呈さない患者さんもいますので、実際、どれだけの患者さんがいるかは分かりません。

ほとんどの人が軽症で治りますが、高熱が続く場合や、熱が下がった後で重篤になる場合もあります。主な症状は発熱、筋肉痛、関節痛、骨の痛み、頭痛、眼の奥の痛み、顔面の発疹などです。20人に1人は大出血やショックに陥ることもあります。

デングウイルスは4種類ありますので4回感染する可能性があります。通常の感染症の場合、1回かかっていれば、2回目以降は軽症で済むことが多いのですが、デング熱は逆に、2回目以降のほうが重症化するのです。

病院ではデング熱かどうかの検査はできません。診察した医師が疑わしいと考えた場合、保健所に連絡して、特殊な検査機関で検査することになります。夜間や休日には検査できません。また、患者さんが直接、保健所に問い合わせても検査はできません。

特効薬やワクチンはなく、蚊に刺されないこと、刺されない衣服を着用すること、昆虫駆除剤を使用すること、蚊を駆除すること、蚊が発生しやすい水たまりを作らないことが唯一の予防法です。

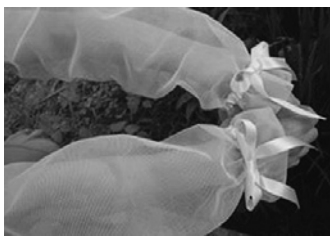
デング熱以外にも、日本には、日本脳炎という、同じく蚊が媒介する感染症があります。こちらは大分県の80%以上の蚊がウイルスを持っています。また、温暖化にもなっており、今後、これまで日本では考えられなかった蚊を媒介する感染症(マラリア、ウエストナイル熱、チクングニヤなど)が増えるかもしれません。

ですから、蚊への対策は大切です。もちろん、流行地域への海外旅行する場合は特に注意してください。

## 蚊が運ぶ感染症とその予防

デング熱、日本脳炎。

海外旅行の際にはマラリア、ウエストナイル熱、チクングニヤなどにも注意。



- ・蚊に刺されない事、
- ・刺されない衣服を着用すること、
- ・昆虫駆除剤を使用すること、
- ・蚊を駆除すること、
- ・蚊が発生しやすい水たまりを作らないこと



注：津久見中央病院にて、「こどもの病気に関するミニ講演会」を月1回(原則第3木曜日17時～17時半)に開催しています。参加自由です。

また、津久見市では、「こどもの病気とその対策法フローチャート」を発行しています。必要な方は、

津久見市 健康推進課 ☎82-9523  
FAX82-6187